

防犯マニュアル

記

作成：令和4年3月1日

場所：ふじみ野市役所5階A大会議室

講師：危機管理防災課池田副主幹

参加：新田 哲男

《防犯の心掛け》

- ・ 玄関には(常時)鍵をするように心掛ける。
- ・ 張り紙でも良いので関係者以外立ち入り禁止の掲示をする。
入り口にロープを張るのも効果的。
(不審者に防犯意識が高いと思わせる)
- ・ 入り口にカウンター等を設置し、不審者が安易に侵入できない様にする。
- ・ 来所した人物の顔を見て挨拶する。(不審者は挨拶だけでも嫌がる)
- ・ 緊急時のマニュアルを見直す。(通報等の連絡先を見直す)

○不審者による110番をした際の流れ

1. 最初に事件か事故の確認
⇒ 「不審者が居ます」の回答でOK。
2. 場所の確認(必ず市町村から)
⇒ 「ふじみ野市鶴ヶ舞1-1-18」
3. いつですか？
⇒ 不審者が居る状況なら「今」でOK。
4. 不審者の特徴(ざっくりで良い)
⇒ 身長(だいたい)、体系、髪型、服装等を伝える。
5. 不審者が逃げた場合
⇒ 逃走した方向と逃走手段を伝える(徒歩、自転車、車等)

☆ 110番は上記のように色々と聞かれる(10~15分)ので、
通報に関しては専任の担当者を決めておいたほうが良い。
(日頃の人員体制を多めにしておく)

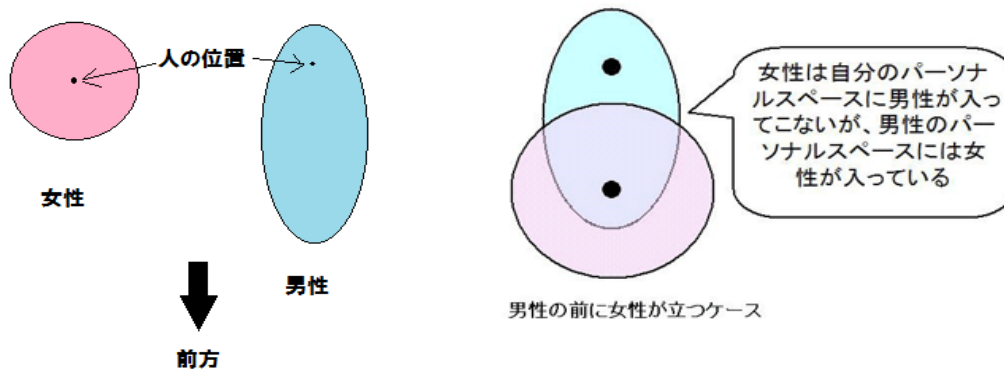
☆ 職員間の情報伝達が重要なので、緊急時の対応と連絡網を
きちんと構築しておくことが大切。

《不審者への対応》

○ 不審者が居る場合

- ・ まずは声掛け(「何か御用ですか?」、「どうかしましたか?」等)が大事。
(大抵はこれで退散する)
声をかける際は一定の距離とパーソナルエリアを考慮する。

【図解: パーソナルエリア】



- ☆ 男性と女性でパーソナルエリアが異なるので、意図せずに異性のパーソナルエリアに侵入している事がある。
(男性は前方のパーソナルエリアが広いので斜め前から話しかけるのが良い)

○ 不審者が大声、言動が粗暴、机等を叩く行為がある場合

- ・ この段階で110番しても良い。
- ・ 声掛けする際は、距離をとる事を念頭に置く。
(手を前に出して相手を牽制する)
会話が途切れると、次は行動に移るケースが多いので、なるべく会話は切らないように、続けて声掛けする。
- ・ 他職員及び、近隣住民へ、異常を伝達をする。
笛を鳴らす／防犯ブザーを押す。
⇒ 異常を察知した職員は、それぞれの役割を果たす。
(110番通報／子どもたちの避難／近隣住民への通達等)

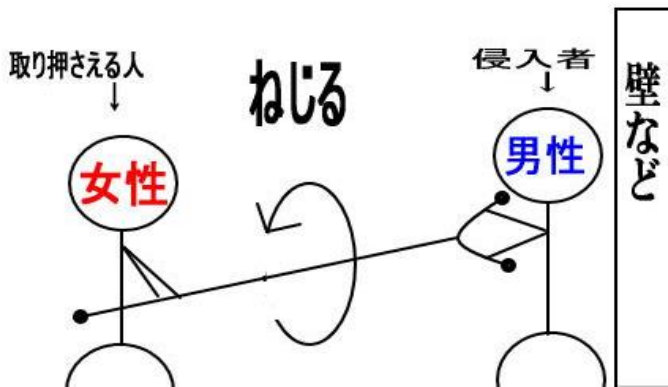
○ 刃物を持った不審者への対応

(刃物に関連した事案は、東入間でも月に1～2件起きている)

- ・ 常に大声を出して、威嚇及び、職員／近隣住民に不審者が刃物を持っていることを周知させる。
⇒ 「刃物を持ってろぞ!」、「警察を呼んだぞ! (実際に呼んでなくても)」等近隣住民にも刃物を持った不審者が居ることを周知させて、逃走した不審者による被害が出ないように心掛ける。

○ “さすまた”による対応について

- ・ 基本的にさすまたで不審者を取り押さえることは、警察官でも難しい。
(不審者も回避する上に、捕えても力で負けるパターンが多い)



※ さすまたの部分掴まれると、
てこの原理で侵入者が有利。

- ⇒ 威嚇だと思って取り扱う。(不審者の胸ではなく、顔に先端部を向ける)
胸で捕えた場合は、脇下から不審者を斜め上に持ち上げるようにする。
また、職員もなるべく大人数で対応する。
(警察官でも成人男性を取り押さえるには3名の人員が必要とされている)



○ さすまたが無い職場での対応

- ・ 市販の盾、もしくはイスで対応する。
(さすまたより、イスの方が刃物も防げて効率が良いとの事)



《日頃から防犯の意識を高める》

- ・ 家の戸締りをしっかりやる／自転車の鍵は必ず掛ける／ポイ捨て等をしない
(軽犯罪を許すと、徐々に地域の治安が悪くなり、重大犯罪が増えていく)
- ・ 巧妙化する詐欺の手口を知り、騙されないように心掛ける。
(オレオレ詐欺／押し売り販売等)